

平成31年度静岡大学大学院総合科学技術研究科農学専攻 12月学生募集要項

平成31年度静岡大学大学院総合科学技術研究科農学専攻12月学生募集を下記日程で行います。詳しくは募集要項をご覧ください。

出願期間:平成30年11月5日(月)～11月9日(金)《16時必着》

試験日:平成30年12月6日(木)

合格発表:平成30年12月14日(金) 12時

学生募集要項の請求方法について

(1) 窓口で請求する場合

学生募集要項は農学部学務係で配布しています。

(2) 郵送にて請求する場合

表に『大学院総合科学技術研究科農学専攻学生募集要項請求』と朱書きした封筒に、「返信用封筒」を同封して農学部学務係宛に送付してください。募集要項は無料ですが、郵送料についてはご負担をお願いします。

「返信用封筒」(本学からの募集要項送付用封筒)

- ・規格 角形2号封筒
- ・請求者の郵便番号、住所、氏名を明記
- ・205円分の切手を貼り、折りたたんで大学に送付する封筒に入れてください。

(3) 担当窓口及び請求先

〒422-8529 静岡市駿河区大谷836

静岡大学農学部学務係

TEL:054-238-4815・4816, FAX:054-237-9362

E-mail: agr-gakumu@cii.shizuoka.ac.jp

平成31年度

静岡大学大学院総合科学技術研究科
農学専攻(修士課程)

12月学生募集要項

平成30年10月



静岡大学

平成31年度静岡大学大学院総合科学技術研究科
農学専攻(修士課程)
12 月 学 生 募 集 要 項

◇静岡大学の理念と目標◇

理念「自由啓発・未来創成」

この理念は、教育だけでなく、なにごとにもとらわれない自由な発想に基づく独創的な研究、相互啓発的な社会との協働に不可欠であり、時代を越えて受け継がれるべきものです。静岡大学の学生・教職員は、このような認識の下で、教育、研究、社会連携・産学連携、国際連携の柱として、「自由啓発」の理念を引き続き高く掲げ、共に手を携えて地域の課題、さらには地球規模の諸問題に果敢にチャレンジするとともに、人類の平和と幸福を絶えず追求し、希望に満ちた未来を創り出す「未来創成」に全力を尽くします。

静岡大学は、以上のような意味での「自由啓発・未来創成」の理念のもと、静岡県に立地する総合大学として、地域の豊かな自然と文化に対する敬愛の念をもち、質の高い教育、創造的な研究による人材の育成を通して、人類の未来と地域社会の発展に貢献していきます。

詳しくは <http://www.shizuoka.ac.jp/outline/vision/pdf/manifesto.pdf> を参照ください。

◇総合科学技術研究科のアドミッション・ポリシー◇

【育てる人間像】

進展するグローバル化社会のなかで、社会的ニーズや科学技術の課題の解決のために、個別の専門分野を越えて柔軟に対応することができ、研究・開発や企業の海外展開における国際交流に貢献できる理工系人材の育成を目指す。また博士課程でのより高度な研究に取り組むことのできる人材の育成を目指す。

【目指す教育】

個別的な専門的基礎の上に立って、関連する専攻や自らの有する知識の社会的位置づけをも含めた、より広い融合的な学際分野について俯瞰する能力、外国語で自らの専門分野及び関連する諸分野について理解し、発表し、議論することのできる国際的な対応能力、および博士課程でのより高度な自立的研究の基礎となる能力を修得させる。

【入学を期待する学生像】

現在の様々な社会的・科学技術的な諸問題に対して強い関心があり、研究や科学技術の発展を通じて社会に貢献する強い意欲を持っている学生を求める。さらに国際的な感覚を有し、海外の学生や研究者と協働して学習および研究や開発を遂行できる学生を求める。

【入学に必要とされる資質・能力】

学士課程の個別的な専門分野で形成されるべき基礎的な知識と能力が必要である。またこれらの知識と能力を応用できる思考力、判断力および表現力が必要である。さらに国際的なコミュニケーション能力と共に、多様な人々と協働して学ぶことのできる意欲が必要である。

◇農学専攻のアドミッション・ポリシー◇

【育てる人間像】

環境・バイオサイエンスを基礎として衣食住を充足するための学理や技術を深化させた教育と研究を行い、地域や国際社会の持続的発展に貢献できる人材を養成します。

【目指す教育】

1. 地域や国際社会の発展に関わる専門分野について多くの基礎知識とともに、実験・演習を重視した教育研究により応用力を修得します。
2. 職業人・社会人となる際の基本的な素養を修得し、また、関連産業と研究との関係を広く理解することにより、将来の研究におけるバックボーンを形成します。
3. 自然科学における多様な先端的分野に関する知識や、技術者倫理・社会観を総合的に修得し、専門分野だけでなく周辺領域や融合領域を広く学びます。

【入学を期待する学生像】

農学における幅広い基礎知識を有し、研究や技術開発に対する強い意欲のある以下の学生を受け入れます。

1. 環境を重視した持続的な生物資源の生産と利用技術の開発に興味をもち、独創性と応用能力並びに国際感覚を備えた学生
2. 人類生存に直接関わる生物資源や環境問題に強い関心をもち、その解決に貢献しようという使命感あふれる学生

【入学に必要とされる資質・能力】

農学における幅広い基礎知識と志望する分野における専門知識を有し、研究や技術開発に対する強い意欲を持って入学後に勉学及び研究活動を遂行しうる能力を有していることが必要です。このため各コースにおいて、研究活動に必要な基礎学力を判断する専門科目の学力試験と、研究意欲やコミュニケーション力を判断する面接試験を行います。研究を進めるうえで参考文献を理解することができる外国語の読解力も必要とされます。農業ビジネス起業人育成コースでは、専門分野の基礎知識に加え、農業ビジネスへの強い意欲が必要になります。

1 募集人員

共生バイオサイエンスコース	10名程度
応用生物化学コース	若干名
環境森林科学コース	10名程度 (山岳科学教育プログラムを含む)
農業ビジネス起業人育成コース	若干名

2 出願資格

平成31年3月末日をもって、下記(1)～(9)のいずれかに該当、あるいは該当する見込みの者

- (1) 大学を卒業した者
- (2) 学校教育法(昭和22年法律第26号。以下この条において「法」という。)第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が指定するものの当該課程を修了した者
- (6) 外国の大学その他の外国の学校(その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。)において、修業年限が3年以上である課程を修了すること(当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。)により、学士の学位に相当する学位を授与された者
- (7) 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (8) 文部科学大臣の指定した者
- (9) 法第102条第2項の規定により他の大学院に入学した者であって、当該者をその後に入学者とする場合には、大学院において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認められた者
- (10) 大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、22歳に達した者
- (11) 大学に3年以上在学した者であって、大学院の定める所定の単位を優秀な成績で修得したと認められたもの
- (12) 外国において学校教育における15年の課程を修了した者であって、大学院の定める所定の単位を優秀な成績で修得したと認められたもの
- (13) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者であって、大学院の定める所定の単位を優秀な成績で修得したと認められたもの
- (14) 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が指定するものの当該課程を修了した者であって、大学院の定める所定の単位を優秀な成績で修得したと認められたもの

(注) 上記(9)～(10)の出願資格及び(11)～(14)の飛び級(p.10参照)に該当する者については事前の審査を行います。該当者は、平成30年10月5日(金)までに(3)出願書類提出先に必要書類を請求してください。

3 出願手続

- (1) 出願期間
平成30年11月5日(月)～11月9日(金)の平日9時～12時30分、13時30分～16時
郵送の場合は、平成30年11月9日(金)16時までに必着のこと。
- (2) 出願方法
出願書類及び検定料を一括とりそろえて出願期間内に下記あて提出してください。
郵送の場合は、必ず「速達・書留」とし、封筒に「大学院出願書類在中」と朱書きとってください。

(3) 出願書類提出先

〒422-8529 静岡市駿河区大谷836 静岡大学農学部学務係 TEL 054-238-4815～4816
FAX 054-237-9362

4 出願上の注意

- (1) 出願は、志望するコースの1専門分野のみとします。
- (2) 専門分野と担当教員については、p. 11～17の「静岡大学大学院総合科学技術研究科農学専攻（修士課程）の概要」を参照し、出願前に必ず志望する教員に連絡をとり、研究テーマや指導の可能性について相談してください。
- (3) 山岳科学教育プログラムの履修希望者は環境森林科学コースを志望コースとしてください。入学後に山岳科学教育プログラムを選択することができます。

5 出願書類及び検定料

1	入学志願票	本専攻所定の用紙に必要事項を記入のうえ写真を貼付したもの
2	受験票	本専攻所定の用紙に必要事項を記入したもの
3	成績証明書	出身大学の学長又は学部長が記入作成し、厳封したもの
4	卒業又は卒業見込証明書	出身大学の学長又は学部長が記入作成し、厳封したもの
5	検定料 (払込受付証明書)	30,000円を同封の「払込取扱票」により、郵便局の受付窓口で払い込み、「払込受付証明書」を本専攻所定の用紙に貼付し、提出してください。 ※国費外国人留学生は不要です。ただし、在学している大学が発行する「国費外国人留学生証明書」（様式任意）を提出すること。
6	あて名票	本専攻所定の「合格通知受信用あて名票」及び「入学手続案内あて名票」に郵便番号、住所、氏名を記入したもの
7	返信用封筒	長型3号の封筒(23.5cm×12cm)に郵便番号、住所、氏名を明記し、362円切手（速達）を貼付したもの
8	在留カード	日本国籍を有しない者のみ
9	受験許可書	現在、官公庁・会社等に在職中の者で入学後も在職する場合は、その長が発行したもの
10	学位記の写し又は学位授与証明書	出願資格(2)による学士の学位を授与された者は、学位記の写し又は学位授与証明書を提出すること。なお、見込みの者は、当該「修了見込証明書」及び「学士の学位授与申請（予定）してある旨の証明書」（様式随意：学位が得られなくなった場合は、速やかに通知する旨の記載があるもの）を提出してください。
11	志望理由書 ^(注)	本専攻所定の用紙に必要事項を記入したもの。

(注) 農業ビジネス起業人育成コースの受験者に限ります。

6 入学者選抜方法

コ ー ス	選 抜 方 針 及 び 配 点 と 判 定 方 法
共生バイオサイエンス コース	<p>(1) 選抜方針 共生バイオサイエンスの学問分野において、将来、社会の中心的な役割を担う研究者や技術者の育成を目指し、入学後の勉学と研究活動を遂行しうる能力及び学力について、以下の各試験で判断します。</p> <p>①学力試験（外国語、専門科目） 配点：各100点 ②面接試験 配点： 20点</p> <p>(2) 判定方法 ①学力試験、面接試験の評価点を総合して、各専門分野ごとに高得点の者から順に選抜します。 ②学力試験において、各科目の得点がそれぞれ50点に満たない場合は、他の試験の得点に拘わらず不合格とします。 ③面接試験において、10点に満たない場合は、他の試験の得点に拘わらず不合格とします。なお、提出書類は、面接試験の評価の基礎資料として活用します。</p>
応用生物化学コース	<p>(1) 選抜方針 応用生物化学の学問分野や関連産業において、将来、社会の中心的な役割を担う研究者や技術者の育成を目指し、入学後の勉学と研究活動を遂行しうる能力及び学力について、以下の各試験で判断します。</p> <p>①学力試験（専門科目） 配点：50点 ②面接試験 配点：50点</p> <p>(2) 判定方法 ①学力試験、面接試験の評価点を総合して、各専門分野ごとに高得点の者から順に選抜します。 ②学力試験において、25点に満たない場合は、他の試験の得点に拘わらず不合格とします。 ③面接試験において、25点に満たない場合は、他の試験の得点に拘わらず不合格とします。なお、提出書類は、面接試験の評価の基礎資料として活用します。</p>
環境森林科学コース (山岳科学教育プログラムを含む)	<p>(1) 選抜方針 環境森林科学の学問分野や環境、資源、利用などに関連する産業において、将来、社会の中心的な役割を担う研究者や技術者の育成を目指し、入学後の勉学と研究活動を遂行しうる能力及び学力について、以下の各試験で判断します。</p> <p>①学力試験（専門科目） 配点：60点 ②面接試験 配点：40点 ※①学力試験(専門科目)は口述で行います。</p> <p>(2) 判定方法 以下の①の条件を満たした上で、学力試験、面接試験の結果を総合して、合否が判定されます。</p> <p>①学力試験と面接試験の得点の合計が60点以上であること。 ②提出書類は、面接試験の評価の基礎資料として活用します。</p>

農業ビジネス起業人 育成コース	(1) 選抜方針 農業をビジネスとして捉え、農業で起業することを目的とする人材の育成を目指し、入学後の勉学と研究活動を遂行しうる能力及び学力について、以下の各試験で判断します。 ①出願書類（志望理由書） 配点：20点 ②学力試験（小論文） 配点：50点 ③面接試験 配点：50点 (2) 判定方法 ①出願書類、学力試験、面接試験の評価点を総合して、高得点の者から順に選抜します。 ②上記（1）の、いずれかの評価点が50%に満たない場合は不合格とします。
--------------------	---

(1) 外国語は、「英語」です。ただし、外国人^(注1)は日本語を選択できます。

(2) 専門科目^(注2)は、志望する「専門分野」を構成する試験科目のうち1科目を選択してください。

(注1) 出願資格(3)(4)(6)及び外国人留学生として日本の大学を卒業した者及び平成31年3月卒業見込みの者として志願する者。

(注2) 学力試験（専門科目）一覧表はp.9のとおりです。

7 試験日時

専 攻	期 日	時 間	項 目
共生バイオサイエンス コース	平成30年12月6日(木)	9:30 ~ 10:30	学力試験（外国語：筆記試験）
		11:00 ~ 12:20	学力試験（専門科目：筆記試験）
		13:30 ~	面接試験
応用生物化学コース	平成30年12月6日(木)	11:00 ~ 12:20	学力試験（専門科目：筆記試験）
		13:30 ~	面接試験
環境森林科学コース （山岳科学教育プログラムを含む）	平成30年12月6日(木)	9:30 ~	学力試験（専門科目：口述試問） 面接試験
農業ビジネス起業人 育成コース	平成30年12月6日(木)	11:00 ~ 12:20	学力試験（小論文）
		13:30 ~	面接試験

8 試験場所

静岡大学農学総合棟（静岡市駿河区大谷836）

9 合格発表

平成30年12月14日（金）（12時発表予定）

静岡大学農学総合棟掲示板に掲示するとともに、農学部ホームページ<http://www.agr.shizuoka.ac.jp>にも掲載します。また、合格者に直接郵便にて通知します。

10 確約書の提出

合格者には入学確約書（本研究科所定の用紙）を郵送しますので、本人署名のうえ、平成30年12月26日（水）までに提出してください。期日までに提出されない場合は、辞退したものとして取り扱います。

11 入学手続

平成31年3月に行います。

なお、詳細および必要書類は、平成31年2月中旬に合格者へ別途通知します。

12 入学料及び授業料

(1) 入学料 282,200円《平成30年度実績額》

(2) 授業料 年額 535,800円（半期分267,900円）《平成30年度実績額》

(注)①授業料・入学料の納入方法については、入学手続書類を送付するときに案内いたします。

②本学では、文部科学省の定める標準額に準拠することとしています。在学中に授業料の改定が行われた場合は、改訂時から新料金が適用されます。

13 欠員補充

合格者が募集人員に満たない場合は、第2次募集を行うことがありますが、追加合格による欠員補充は行いません。

14 注意事項

(1) 学力試験、面接試験には、必ず受験票を携帯してください。

(2) 出願後の提出書類の内容変更は認めません。

(3) 一度納入した検定料は、次の場合を除き、いかなる理由があっても返還しません。

① 検定料の返還請求ができる場合

ア 検定料を払い込んだが、本学大学院に出願しなかった場合

イ 検定料を誤って二重に払い込んだ場合

ウ 出願書類に不備等があり、出願が受理されなかった場合

② 返還する検定料の金額

志願者本人の申し出により二重払い込み分又は全額を返還します。

③ 検定料返還請求の方法

上記のア又はイに該当する場合は、便せん等を使って、次の1～8を明記した検定料返還請求書を作成し、必ず「郵便振替払込受付証明書（入学検定料受付証明書）」又は「払込金受領証」を添付して、平成30年11月15日（木）〔必着〕まで静岡大学農学部学務係（〒422-8529 静岡市駿河区大谷836）へ郵送してください。

ウの場合は、出願書類返却時に「検定料返還請求書」を同封しますので、必要事項を記入の上郵送してください。

静岡大学大学院入学検定料返還請求書

- 1 返還請求の理由
 - 2 入試区分（自己推薦型入試、一般入試、12月入試、外国人留学生入試等）
 - 3 出願しようとした大学院研究科・専攻・コース名
 - 4 氏名（フリガナ）
 - 5 現住所（フリガナ）
 - 6 連絡先電話番号
 - 7 返還請求額
 - 8 返還金振込先・金融機関名（郵便局は不可）、支店名
 - ・預金種別（当座・普通）、口座番号
 - ・口座名義人（フリガナ）
 - ・口座名義人が志願者と異なる場合は、志願者との続柄
- なお、返還に係る振込手数料は請求者の負担とします。

(4) 合格者のうち、官公庁又は会社等に入学後も在職する者は、入学手続の際その長又は代表者の就学承認書を必要とするのであらかじめ用意しておいてください。

(5) 募集要項や事前審査書類の請求及び入学試験に関する照会等は、p.4の「3出願手続の(3) 出願書類提出先」あてに郵便で行ってください。

なお、募集要項の請求にはあて先を明記した返信用封筒〔角形2号封筒(33cm×24cm)〕に205円切手を、入学試験に関する照会には定形封筒に82円切手を貼付したものを送付してください。

- (6) 願い出により入学料・授業料を免除することがありますが、詳細は合格者に案内します。
- (7) 静岡大学では、東日本大震災により被災した志願者の経済的負担を軽減し、受験生の進学機会の確保を図るために、入学検定料の全額返還の特別措置を講じています。詳しくは、下記URL をご覧ください。

東日本大震災により被災した静岡大学入学志願者に係る入学検定料の特別措置について
http://www.shizuoka.ac.jp/th_earthquake/eq_examin2014.html

- (8) 平成28年（2016年）熊本地震で被災した志願者の経済的負担を軽減し、受験生の進学機会の確保を図るために、入学検定料の全額返還の特別措置を講じています。詳しくは、下記URL をご覧ください。

平成28年（2016年）熊本地震で被災した入学志願者の入学検定料の特別措置について
<http://www.shizuoka.ac.jp/nyushi/29kentei.pdf>

15 障がい等のある入学志願者の受験上の注意

障害等のある入学志願者で、受験上及び修学上特別な配慮を必要とする場合は、出願する前に本専攻と相談する必要がありますので、下記により申請してください。

相談の結果は決定次第、本人に連絡します。

なお、申請前に本学のキャンパス（設置場所、環境等）を見学しておくことをお勧めします。

申請期限	原則として出願期間最終日の1か月前まで
申請の方法	『大学院受験特別措置申請書』に、『障害者手帳』の写し又は医師の『診断書』を添えて申請してください。 なお、必要な場合は、本人又はその立場を代弁できる方（保護者、出身学校関係者等）との面談を行うことがあります。
連絡先	〒422-8529 静岡市駿河区大谷836 静岡大学農学部学務係 TEL 054-238-4815, 4816 FAX 054-237-9362

16 大学院入試成績情報の提供

入試情報の開示 当該年度の修士課程における受験者で、不合格者に対して試験成績の開示申請を受付けます。

受付期間：平成31年4月15日（月）から5月15日（水）まで

詳細は、静岡大学学務部教務課大学院係までお問い合わせください。

教務課大学院係 TEL 054-238-4332（直通）

〒422-8529 静岡市駿河区大谷836

入試問題の閲覧 大学院入試の過去の問題については、農学部学務係及び入試情報閲覧室で閲覧することができます。また、農学部学務係では、著作権者からの同意が得られた場合は、複写することができます。

17 個人情報の取扱い

個人情報については、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」及び「静岡大学個人情報管理規則」に基づいて、次のとおり取り扱います。

1. 出願書類に記載された個人情報及び入学者選抜に用いた試験成績は、①入学者選抜（出願処理、選抜実施）、②合格発表、③入学手続業務、④入学者選抜方法及び大学教育改善を支援するための調査・研究を行うために利用します。
2. 入学者の個人情報については、①教務関係（学籍、修学指導等）、②学生支援関係（健康管理、授業料免除・奨学金申請、就職支援等）、③授業料徴収、④入学者選抜方法及び大学教育改善を支援するための調査・研究を行うために利用します。

学力試験（専門科目）一覧表

		専 門 分 野	試 験 科 目
共生バイオサイエンスコース	農学バイオサイエンス	果樹園芸学	○ 果樹園芸学
		野菜園芸学	○ 野菜園芸学
		花卉園芸学	○ 花卉園芸学
		植物遺伝学	○ 植物分子生物学
		応用昆虫学	○ 応用昆虫学
		植物病理学	○ 植物病理学
		収穫後生理学	○ 収穫後生理学
		植物生産管理学	○ 雑草学及び作物学、果樹機能開発学 園芸生理学
		分子進化・情報生物学	○ 情報生物学
		遺伝ゲノム工学	○ 遺伝ゲノム工学
		園芸イノベーション学	○ 園芸イノベーション学
人間環境科学		生態学	○ 生態学
		環境科学	○ 環境毒性学、室内環境学
		環境微生物学	○ 環境微生物学
		持続可能型農業科学	○ 持続可能型農業科学
		農業経営学	○ 農業経営経済学
		哲学	○ 哲学
		環境社会学	○ 環境社会学
応用生物化学コース	応用生物化学	植物化学	× 有機化学
		生物化学	○ 生化学
		食品栄養化学	○ 食品栄養化学
		生物工学	○ 生物工学
		応用微生物学	○ 応用微生物学、微生物化学
		細胞生物学	○ 細胞生物学
		動物生理学	○ 動物生殖生理学
		植物機能生理学	○ 植物栄養学、植物機能利用学
		ケミカルバイオロジー	× 有機化学
環境森林科学コース (山岳科学教育プログラムを含む)	森林圏環境学	林業工学	○ 林業工学
		造林学	○ 造林学
		広域生態学	○ 広域生態学
		森林防災工学	○ 森林防災工学
	生活圏環境学	樹木生理生態学	○ 樹木生理生態学
		木材接着学	○ 木材接着学
		改良木材学	○ 改良木材学
		木材化学	○ 木材化学
		木材物理学	○ 木材物理学
農業ビジネス起業人育成コース		○	小論文

(注) 表中の専門分野欄において、○は募集する分野、×は今回募集しない分野。

(注) 専門科目は志望する専門分野を構成する試験科目のうち1科目を選択してください。

出願資格（9）～（10）の事前審査に関する案内

1. 選抜の概要

- (1) 特別選抜試験は実施せず、一般志願者と同一の試験を行います。
- (2) 出願受付前に、出願資格の有無を判定する「事前審査」を行います。

2. 日 程

項 目	日 程
事前審査書類請求期限	平成30年10月5日(金)
〃 提出期限	10月12日(金)
事前審査	10月15日(月)～10月19日(金)
事前審査結果通知	10月22日(月)
一般募集入試出願期間	11月5日(月)～9日(金)
入学試験	12月6日(木)
合格発表	12月14日(金)
入学手続	平成31年3月7日(木)

出願資格（11）～（14）の“飛び級”に関する案内

1. 選抜の概要

- (1) 特別選抜試験は実施せず、一般志願者と同一の試験を行います。
- (2) 出願受付前に、出願資格の有無を判定する「事前審査」を行います。
- (3) 入試合格者に対しては、平成31年3月の時点で3年次の学業成績を判定（最終審査）し、所定の単位を優れた成績をもって修得することができなかった場合には、入学を許可しません。

2. 日 程

項 目	日 程
事前審査書類請求期限	平成30年10月5日(金)
〃 提出期限	10月12日(金)
事前審査	10月15日(月)～10月19日(金)
事前審査結果通知	10月22日(月)
一般募集入試出願期間	11月5日(月)～9日(金)
入学試験	12月6日(木)
合格発表	12月14日(金)
成績証明書提出期限	平成31年3月1日(金)
成績判定(最終審査)	3月4日(月)
成績判定結果通知	3月5日(火)
入学手続	3月7日(木)

3. 出願資格認定基準

- (1) 本学部の学生については、次のとおりとします。
 - ①2年次までに開講されている科目全単位数の95%以上を修得していること。なお、必修科目は全単位数を修得していること。
 - ②履修した全科目の85%以上が、優（又はA）以上であること。
- (2) 本学の他学部及び他大学の学生については、上記の基準に準じて審査を行います。

4. 3年次の成績判定

- (1) 3年次までの成績証明書を、平成31年3月1日（金）までに提出していただきます。
- (2) 最終審査は、『3. 出願資格認定基準』に準じて行います。
- (3) 専修する分野に関連の深い専門科目は、特に成績優秀であること。

静岡大学大学院総合科学技術研究科農学専攻の概要

共生バイオサイエンスコース

コースの内容

本コースは、持続可能型生産活動への要望に応えるために、生物生産（農学バイオサイエンス）と環境（人間環境科学）のいずれかの専門領域に軸足を置きながらも、他方の専門分野のセンスを持ち合わせた、これまでにない研究者又は職業人養成を目指して教育・研究を行います。

	専門分野	担当教員	主要授業科目	現在の研究内容
農学 バイオサイエンス	果樹園芸学	准教授 向井啓雄	果樹園芸学特論 果樹園芸学演習	環境要因を中心とした果樹生育の生理生態 果実の成熟生理
	野菜園芸学	教授 鈴木克己 教授 切岩祥和	野菜園芸学特論 野菜園芸学演習	施設野菜の安定生産、多収栽培技術に関する研究 高品質野菜生産を目指した栽培技術の開発
	花卉園芸学	准教授 中塚貴司	花卉園芸学特論 花卉園芸学演習	花卉の開花調節、生理障害、花色発現及び遺伝子操作
	植物遺伝学	教授 本橋令子	植物分子遺伝学特論	植物の葉緑体研究
	応用昆虫学	准教授 田上陽介 准教授 笠井 敦	応用昆虫学特論 害虫防除学特論	害虫と天敵の相互作用を利用した害虫防除の開発 昆虫共生微生物に関する研究 侵入害虫の生物的防除法の研究
	植物病理学	教授 瀧川雄一 准教授 平田久笑	植物病原細菌学特論 植物病理学特論	植物病原細菌の分類・進化 植物と病原細菌との分子相互作用
	収穫後生理学	教授 加藤雅也 准教授 山脇和樹	収穫後生理学特論 収穫後生理学演習	収穫後の園芸作物（果実、野菜、花）の生理学、生化学、分子生物学 青果物の収穫後生理、貯蔵、流通の生理
	植物生産管理学	教授 稲垣栄洋 准教授 八幡昌紀 助教 富永晃好	農業生態学特論 農業生態学演習 果樹機能開発学特論 果樹機能開発学演習	農業・農村の生態系に関する研究 雑草防除、雑草管理に関する研究 果樹の結実生理 染色体工学手法を利用した高品質果樹の開発 園芸作物の突然変異体育種 生産現場で生じる課題を基にした生理学的研究
	分子進化・情報生物学	准教授 堀池徳祐	バイオインフォマティクス特論 バイオインフォマティクス演習	大量遺伝子情報を用いた系統解析
	遺伝ゲノム工学	教授 富田因則	ゲノミクス遺伝学特論 遺伝子工学演習	遺伝子工学による植物ゲノムの改変
園芸イノベーション学	准教授 松本和浩	実践園芸学特論 実践園芸学演習	園芸作物、特に果樹の高品質種苗・果実の生産、開発及びブランド化に関する研究 在来園芸植物の保護と利活用に関する研究	

人間環境科学	生態学	教授 澤田 均	生態学特論	植物の生態、生態遺伝とそのアグロエコシステムへの応用
		教授 山下雅幸	保全生物学特論	外来植物及び雑草の侵入生態学
	環境科学	教授 釜谷保志 准教授 渡邊 拓	生態影響評価学特論 住環境科学特論	化学物質の水環境影響評価 室内空気中に存在する様々な物質の評価
	環境微生物学	教授 小川直人 准教授 鮫島玲子	環境微生物学特論 環境微生物学演習	細菌の芳香族化合物分解機構及び環境応答機構 土壌における窒素循環に関わる微生物に関する研究
	持続可能型農業科学	准教授 南雲俊之	持続可能型農業科学特論	農業生態系における物質循環、農業と水質保全、有機栽培と緑肥利用
	農業経営学	准教授 柴垣裕司	農業経営経済学特論	農協活動の総合効果、農業・農村金融
	哲学	教授 竹之内裕文 准教授 藤本穰彦	生命環境倫理学特論 生命環境倫理学演習 実践コミュニティ特論 実践コミュニティ論演習	「生命と環境」「農と食」「生と死」をめぐる哲学・倫理学・死生学の総合的研究 エネルギー（自然エネルギー）とコミュニティに関する社会学研究
	環境社会学	准教授 富田涼都	環境社会学特論 環境社会学演習	フィールド研究に基づく、環境と社会の関係性についての理念や政策の検討
農村福祉社会学	助教 太田美帆		農村の地域生活・地域社会の分析を通じた持続可能な社会と福祉に関する研究	

応用生物化学コース

コースの内容

本コースは、微生物、植物及び動物資源を効率的に活用して高付加価値物質を開発するとともに、生物の持つ様々な機能の制御機構を細胞・分子・遺伝子レベルで解明することを目標として、バイオサイエンスやバイオテクノロジーについての高度な学理と技術を国際的な視野から教育・研究をしています。

	専門分野	担当教員	主要授業科目	現在の研究内容
応用生物化学	植物化学	教授 轟 泰司 准教授 大西利幸	植物化学特論	植物ホルモンの受容シグナル伝達と代謝に関わる鍵酵素の化学的制御及び植物ストレス耐性付与技術の開発 植物生理活性物質の生合成・代謝機構の解明
	生物化学	教授 河岸洋和 教授 平井浩文 准教授 村田健臣 助教 崔 宰熏 助教 森 智夫	生物化学特論	生物の産生する生体機能調節物質の生化学・有機化学 担子菌を用いた木質バイオリファイナリーに関する研究 糖質関連酵素の機能解明と生理活性糖鎖分子の構築 担子菌－細菌間の相互作用に関する研究
	食品栄養化学	教授 森田達也 教授 西村直道 准教授 日野真吾	食品栄養化学特論	食物繊維の脂質・糖質代謝及び腸管免疫機能に関する研究 栄養成分による腸内細菌叢と大腸内発酵の制御を中心に、生活習慣病など様々な疾病の発症抑制に関する研究
	生物工学	教授 朴 龍洙 准教授 加藤竜也 助教 宮崎剛亜	生物工学特論	生物の機能に基づくカイコバイオテクノロジー ナノマテリアルの相互作用解析及びバイオチップ化 カイコで発現させたタンパク質の構造と機能に関する研究
	応用微生物学	准教授 徳山真治 准教授 小谷真也	応用微生物学特論	有用酵素の機能と構造に関する解析とその応用 新規微生物機能の探索とその利用 微生物の産生する有用物質とその生産制御の研究
	細胞生物学	教授 鳥山 優 教授 笹浪知宏 准教授 茶山和敏	細胞生物学特論	棘皮動物の器官再生機構に関する研究 脊椎動物の卵膜形成に関する分子細胞生物学的研究 受精の分子機構の解明と繁殖制御への応用 母乳中ケモカインの生理学的機能性に関する研究 種々の疾病発症に対する食品成分の効果に関する研究
	動物生理学	教授◆高坂哲也 准教授 與語圭一郎	動物生理学特論	生殖機能系細胞の分化・機能を司る制御因子群の分子動態・シグナリング機構の解明、生殖細胞で特異発現する遺伝子の高次機能解析、これら基盤研究に基づく受胎性向上を目指した生殖工学技術の創成

植物機能生理学	教 授 森田明雄 教 授 木村洋子 教 授 原 正和 准教授 一家崇志	植物機能生理学特論	植物の窒素代謝特性と耐酸性機能の解析とその制御方法に関する研究 真核生物における熱及び環境ストレス応答の分子生物学的解析 植物における非生物的ストレス耐性の向上技術に関する研究 植物のイオンストレス応答特性とその耐性機構に関する研究
ケミカルバイオロジー	助 教 竹内 純	天然物有機化学特論	植物ケミカルバイオロジー研究における化学ツール開発とそれをを用いた植物ホルモンの作用メカニズム解析

◆印の教員は平成32年3月31日で退職の予定です。

環境森林科学コース

コースの内容

本コースは、森林の多様な機能の解明、その機能の増進、機能の持続的利用、特に木質材料の高度有効利活用に資するため、基礎科学、応用科学の幅広い分野の手法を用い、森林科学、木質科学及びそれらの有効利用に関する幅広い先端的な知見を得るとともに、グローバルな視野に立って問題解決ができる高度専門技術者の育成を目指した教育・研究を行います。

	専門分野	担当教員	主要授業科目	現在の研究内容
森 林 圏 環 境 学	林業工学	准教授◆近藤恵市	林業工学特論	木材伐出を中心とした林内諸活動の工学的諸問題
	造林学	教授 水永博己	造林学特論	森林の林冠構造と森林生態系管理技術・天然林の動態センサス
		准教授 檜本正明	森林生態学演習	樹木の環境応答・適応機構
	広域生態学	教授 王 権	Advanced Forest Ecology	生理生態学及びリモートセンシングの結合・流域レベルでの炭素・水平衡モデル
		助教 菌部 礼		リモートセンシングによる生態系および環境評価
森林防災工学	准教授 逢坂興宏 准教授 今泉文寿	砂防工学特論 砂防工学演習	森林の防災機能とその評価 山地流域における土砂移動現象の解明	
樹木生理生態学	准教授 飯尾淳弘		森林における生理生態プロセスの評価・解明	
生 活 圏 環 境 学	木材接着学	教授 山田雅章 助教 田中 孝	高分子複合材料学特論 高分子複合材料学演習 I、II	接着剤ポリマーの物性と接着機構、並びに接着性能、室内空気質の分析 環境対応型接着剤の開発と接着メカニズムの解明
	改良木材学	准教授 小島陽一 助教 小堀 光	改良木材学特論 I セルロースナノファイバ ー科学 改良木材学演習 I、II	木質バイオマスの有効利活用に関する研究 非破壊計測による木質材料の物性評価
	木材化学	教授 河合真吾 准教授 米田夕子	木質生化学特論 木質生化学演習 I、II	リグニン生分解機構の解明、リグニン分解菌による環境汚染物質の分解 樹木二次代謝成分の生理活性と生合成機構 セルロース及びその誘導体の化学
	木材物理学	准教授 小林研治	住環境構造学演習 I、II	木質構造接合部の弾塑性解析

◆印の教員は平成32年3月31日で退職の予定です。

*山岳科学教育プログラム

本プログラムでは、気候変動（地球温暖化等）や突発現象（豪雨、崩壊等）を含む、山岳域で顕著化する諸問題に対処できる人材の育成を目指します。野外、特に山岳フィールドに立脚した分野融合型教育を推進することで、防減災や生態系保全など山岳域の統合的かつ持続的な管理に必要な知識について学びます。本教育プログラムは環境森林科学コースの中に設置されており、同コースの合格者は入学後に本教育プログラムを選択

することができます。

農業ビジネス起業人育成コース

コースの内容

本コースは、我が国農業が抱える諸課題を解決するための一助として、農業をビジネスとして起業できる人材育成を目指し、先進的な農業経営者として必要な農業ビジネスの基礎から応用までの幅広い教育・研究を行います。

専門分野	担当教員	主要授業科目	現在の研究内容
共生バイオサイエンスコース で既述	教授 鈴木克己 教授 瀧川雄一 教授 切岩祥和 准教授 柴垣裕司 准教授 松本和浩	植物環境調節学特論 植物工場論 経営管理技術特論 植物保護学特論 ビジネスプランニング演習 園芸作物生理学演習 先進的農業ビジネス経営論 栽培技術特論	共生バイオサイエンスコースで既述

大学院入学試験に関する問い合わせ先

静岡大学農学部学務係(〒422-8529 静岡市駿河区大谷 836)

TEL 054-238-4815, 4816

FAX 054-237-9362